



新編  
 平林  
 入間無重  
 前

和装本  
 ^ 13  
 2904





13  
2904

門 へ 13  
號 2904  
卷

中世文庫

昭和九年  
七月五日  
購求

9-7-5  
簿


 竹本行方様は菊にお威を  
 又の先少くはぬやどは採米  
 此下等々もまのつくまは  
 此下紙をばらぬ  
 なまのしは菊をばらぬ  
 廿二  


道外どうがいののががむらむらうそうそどどぶぶくくしし  
 節用せつよう小野篁おののえ謚字書しごひ

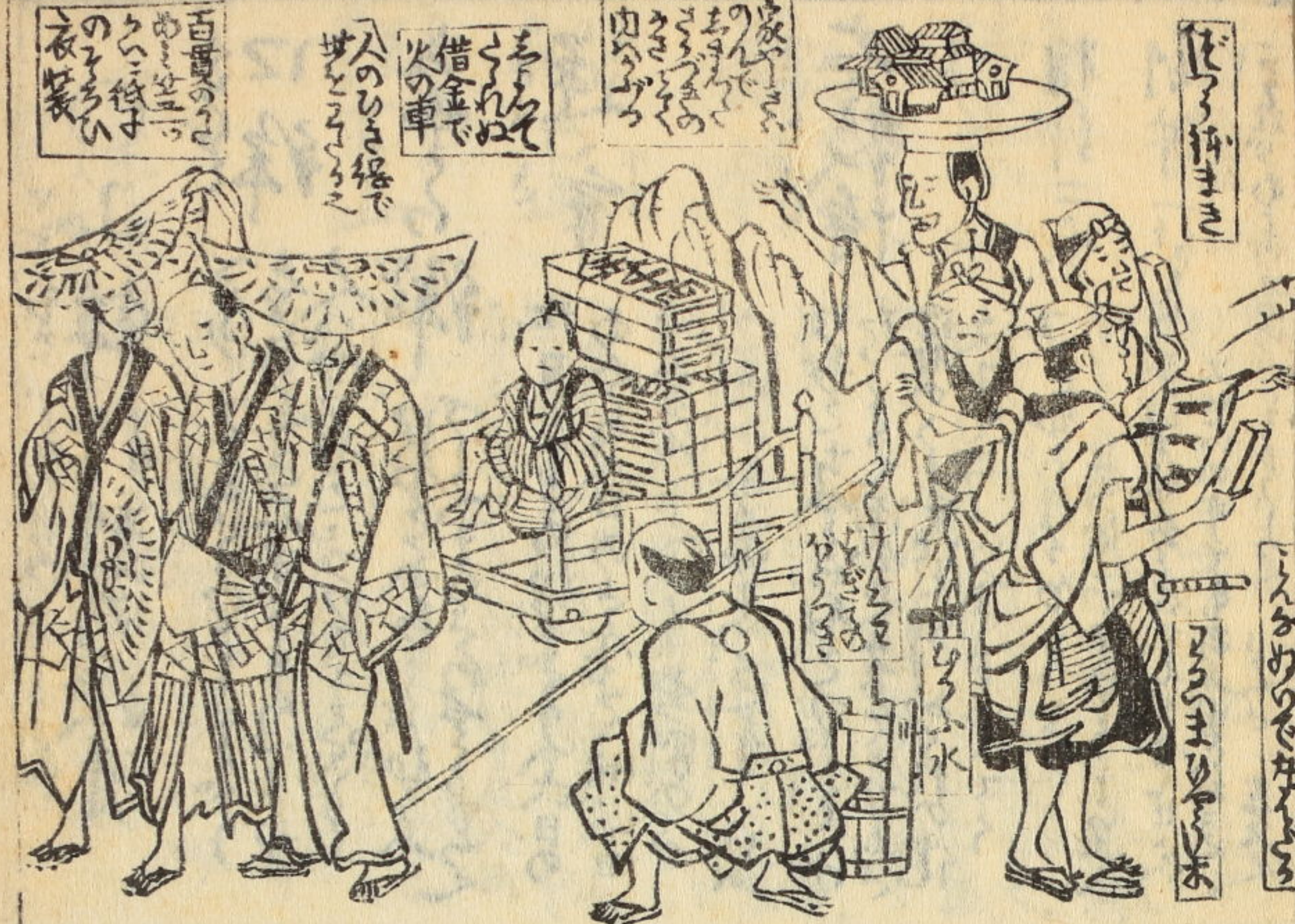
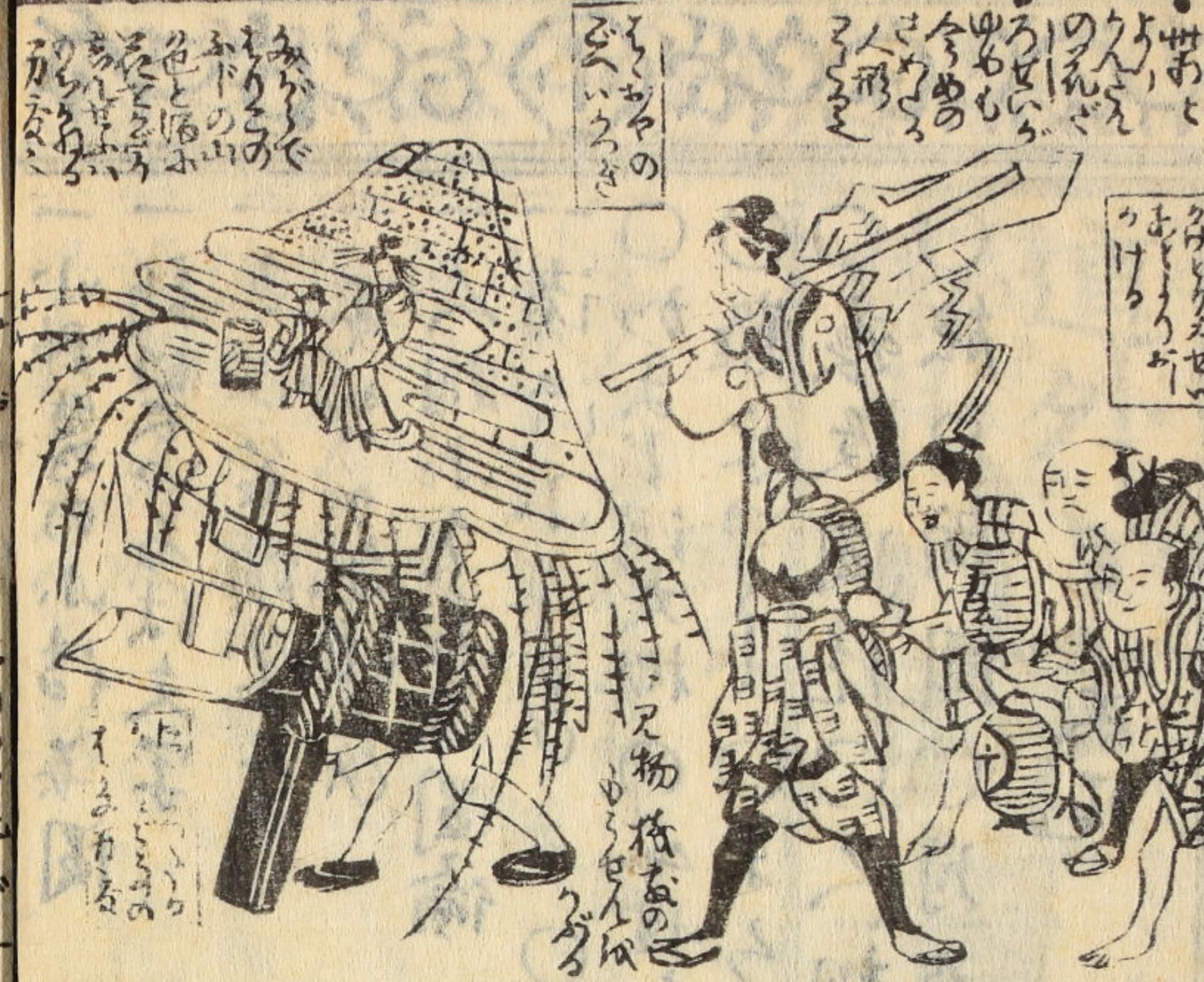
總目

- 一 客人乃宮跡乃祭乃圖
- 一 小算用早割乃法
- 一 根つゝい早割
- 一 額うんごんの書法
- 一 繪馬并懸乃見立
- 一 諸家紋帳
- 一 學後ぶまの事形
- 一 通祿の縁起并糸の行廻
- 一 利劫乃度
- 一 けんまの乃割
- 一 色紙短冊扇認紙
- 一 年中通用文章
- 一 篆書似と字片
- 一 羽素さう方并造物器

- 一 小野篁の小侍英圖
- 一 新制表のちは文字
- 一 五姓名頭字片
- 一 宴まうかほつゝい
- 一 人相小ふみ英圖倫
- 一 諸流小うゝい
- 一 加まど詞大概
- 一 難字つゝし
- 一 痕紋圖統
- 一 能の面圖
- 一 五性判片
- 一 五性と判
- 一 流行と分相
- 一 平生より相
- 一 頭書同縁
- 一 異類英名つゝい
- 一 手の筋早見
- 一 面部圖英任 解
- 一 篇冠構字片
- 一 色角透つゝいのはの来由

大尾

○客人宮後祭禮之圖



○通神之縁記并祭礼の次第  
 客人大通神と通ふ神と申すは神名撰  
 灯立町祭の御主章封のりは徳也  
 あり。真実地へ志る人ひ銀を以  
 して五陸三陸よりさへ籠りてはせ  
 を後生がんとおかしき人をもておかしき人  
 さいのふ後日乃しは六人いれあき益も  
 正月もかりひありせんも即ちあれ山と  
 る事と更にお神楽狐と申す事とあれ  
 よんこ信作のあくるいこまありのこりか  
 せんかいつの神のものと老照納交りま  
 と其一二とくあるふ。年よりく祝の男  
 あるともておかしき人をもておかしき人  
 ありひいを教して目のさるるをいれの  
 事同するもさるるをいれ乃は乃は乃は乃は

たうまあるの狐と申す事とあれ神の  
 乃次背まふり乃十五廿九日の夕方と申  
 うらと申すれ二四十五廿九日の夕方と申  
 又ある日別あわさるる精進日と申  
 且も身命食んく口と申す事とあれ  
 神おかしき人をもておかしき人  
 ども申すのさるるをいれ乃は乃は乃は  
 せんかいつの神のものと老照納交りま  
 と其一二とくあるふ。年よりく祝の男  
 あるともておかしき人をもておかしき人  
 ありひいを教して目のさるるをいれの  
 事同するもさるるをいれ乃は乃は乃は乃は

○山鉾行列の次第

口鉾 鉾の先頭は山鉾の先頭

ちんちん鉾 鉾の先頭は山鉾の先頭

送迎 廿日と廿一日の夜は山鉾の先頭

本教持 鉾の先頭は山鉾の先頭

鉾引二人 鉾の先頭は山鉾の先頭

割竹 一丁おのりおのりおのり

有難山 鉾の先頭は山鉾の先頭

侍兼山 鉾の先頭は山鉾の先頭

蒲鉾 鉾の先頭は山鉾の先頭

似て山 鉾の先頭は山鉾の先頭

狂言山 鉾の先頭は山鉾の先頭

○是れは山鉾の先頭

あがきいふは山鉾の先頭

山鉾の先頭は山鉾の先頭

○月本村雲の... 一本... 月本村雲の... 一本... 月本村雲の... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

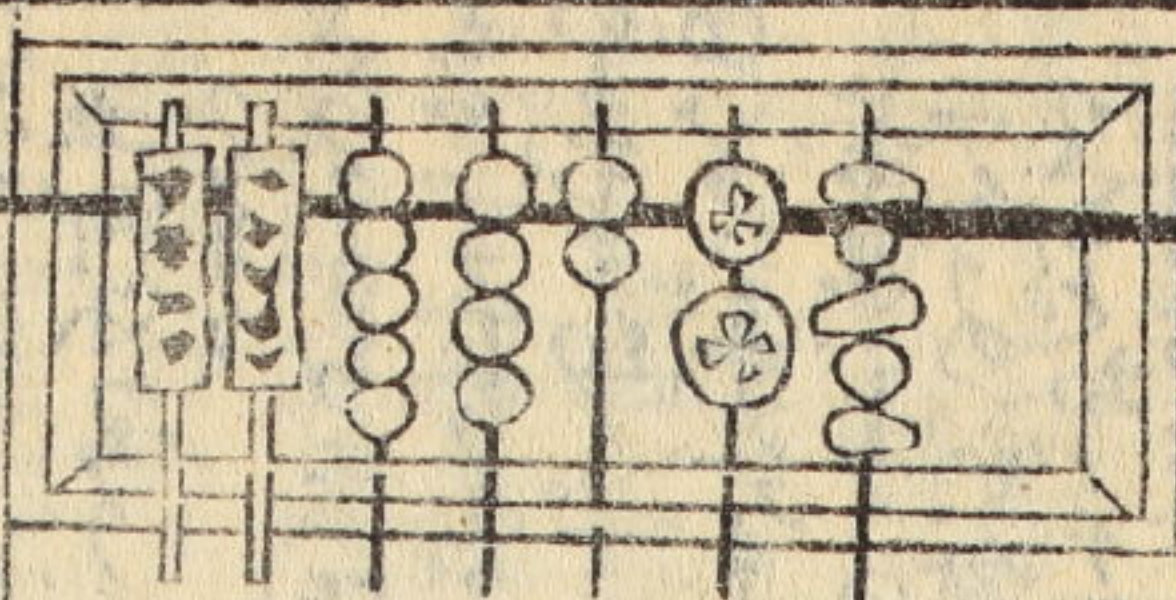
○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...



一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

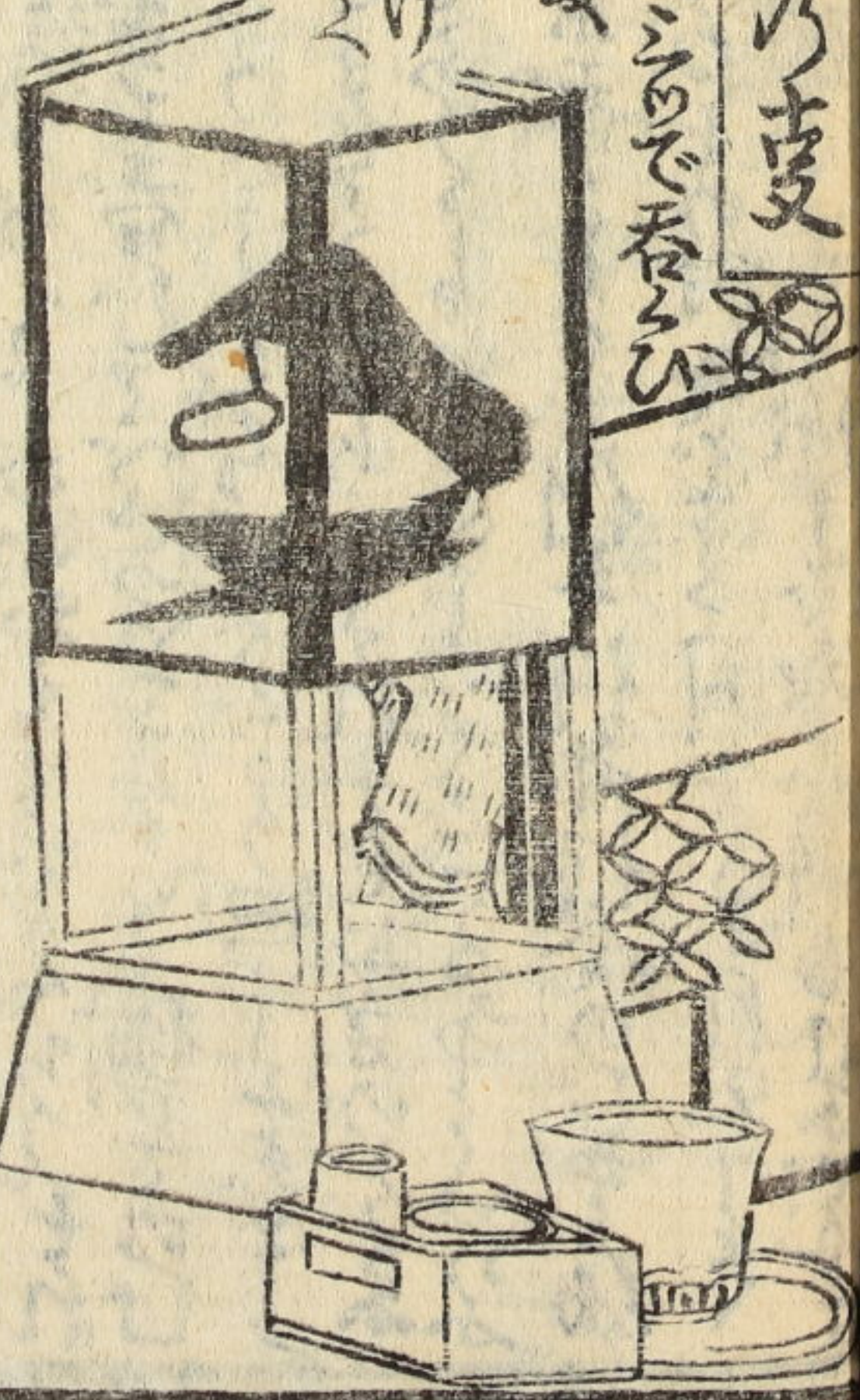
○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...

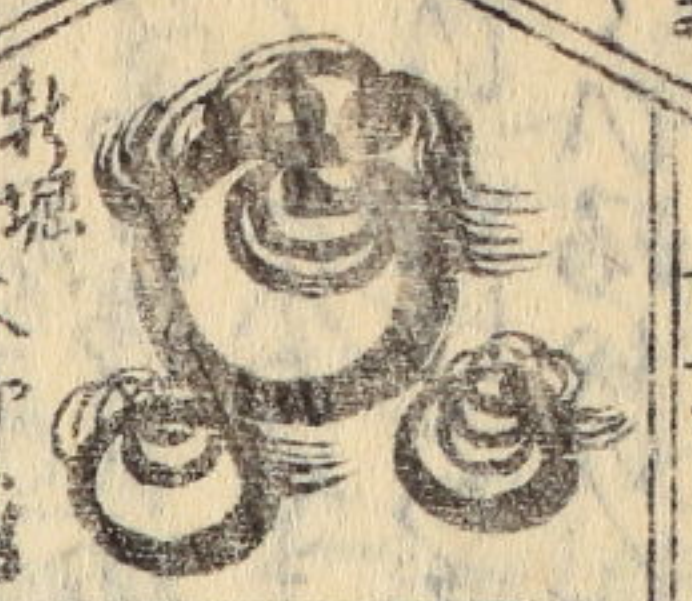


○物まへの... 一本... 物まへの... 一本... 物まへの... 一本...





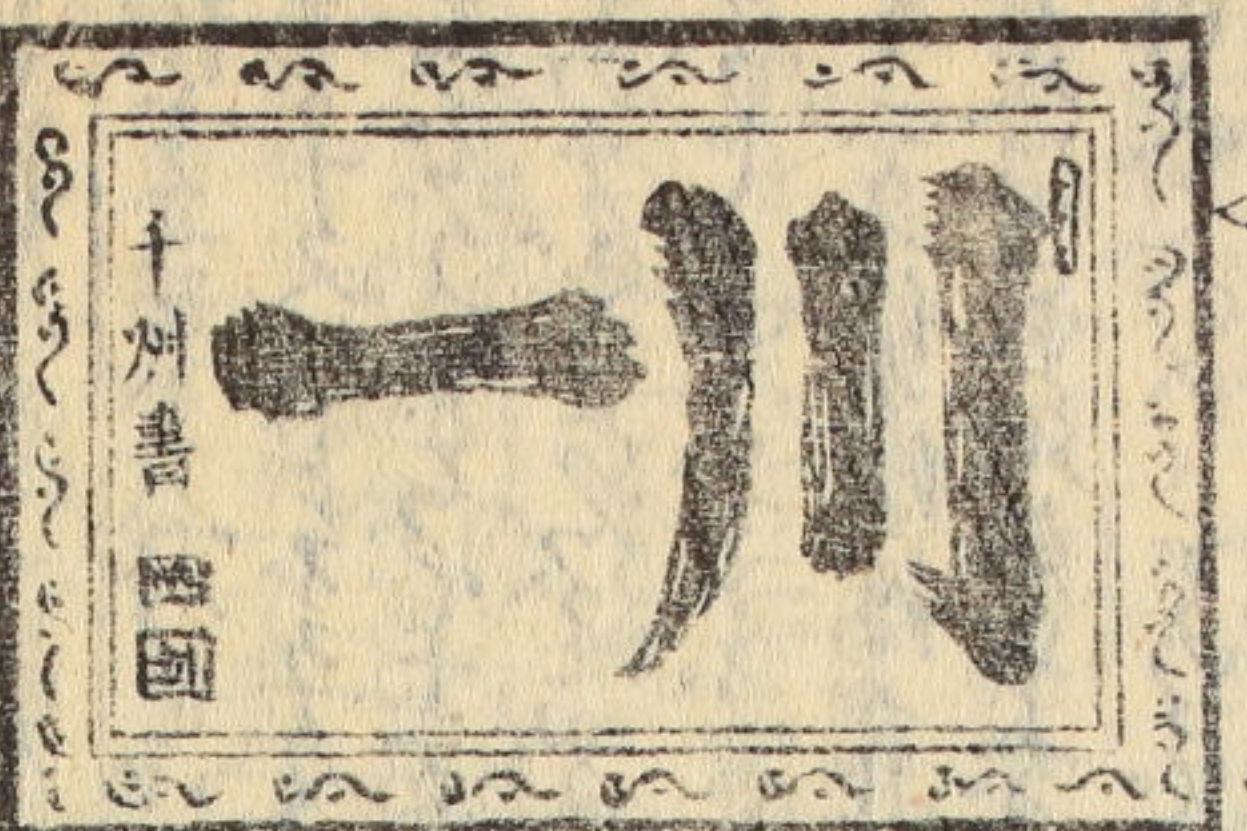
看版類乃文字書法



新堀 太郎



神田町堀 太郎



十洲書 國

病氣平愈  
 此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

色紙短冊扇摺

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

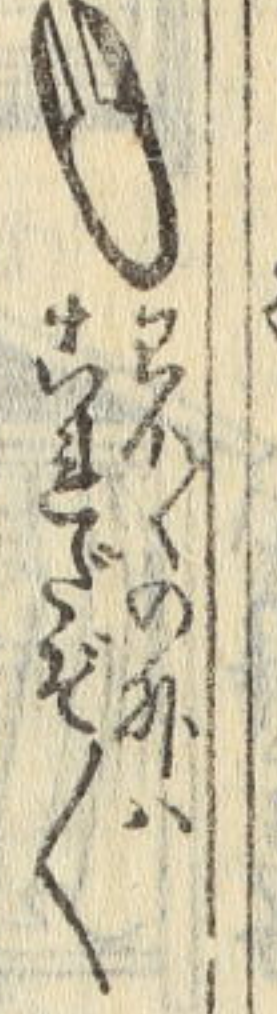
五方 澄人 廿夜 毎 毎 於 子 元 公 乃 山  
 善隆

白山之 雷乃  
 峰流 鳥 影  
 粹仁 也身  
 任流 鳥比 天



表

開の此所小便無用



乳母 御奉公人 只所  
 女中

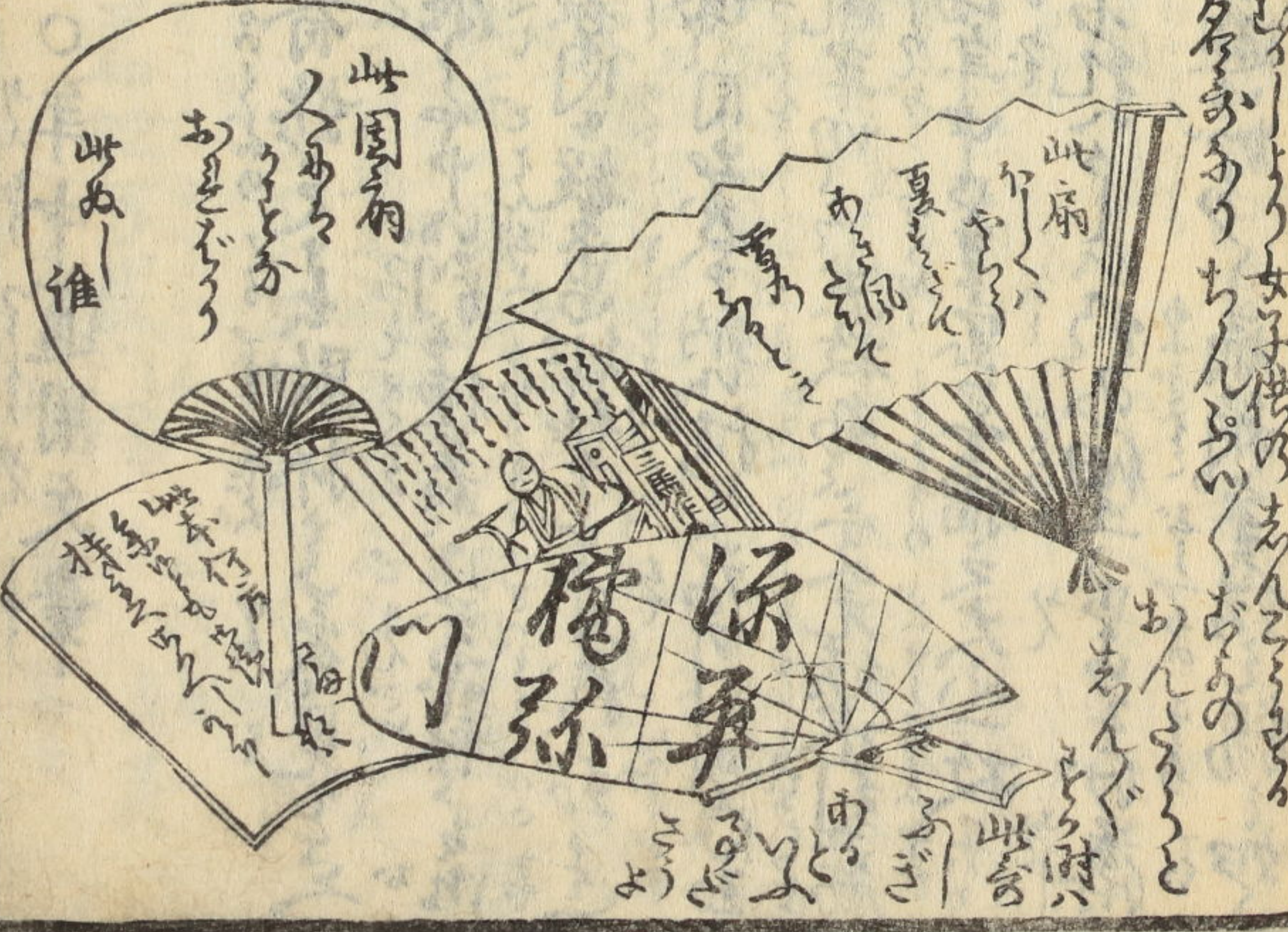


吉野丸  
 吉野丸

吉野丸  
 吉野丸

釣舟清治宿

浦野文左衛門宿



此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎

此の字は、  
 神田町堀  
 太郎



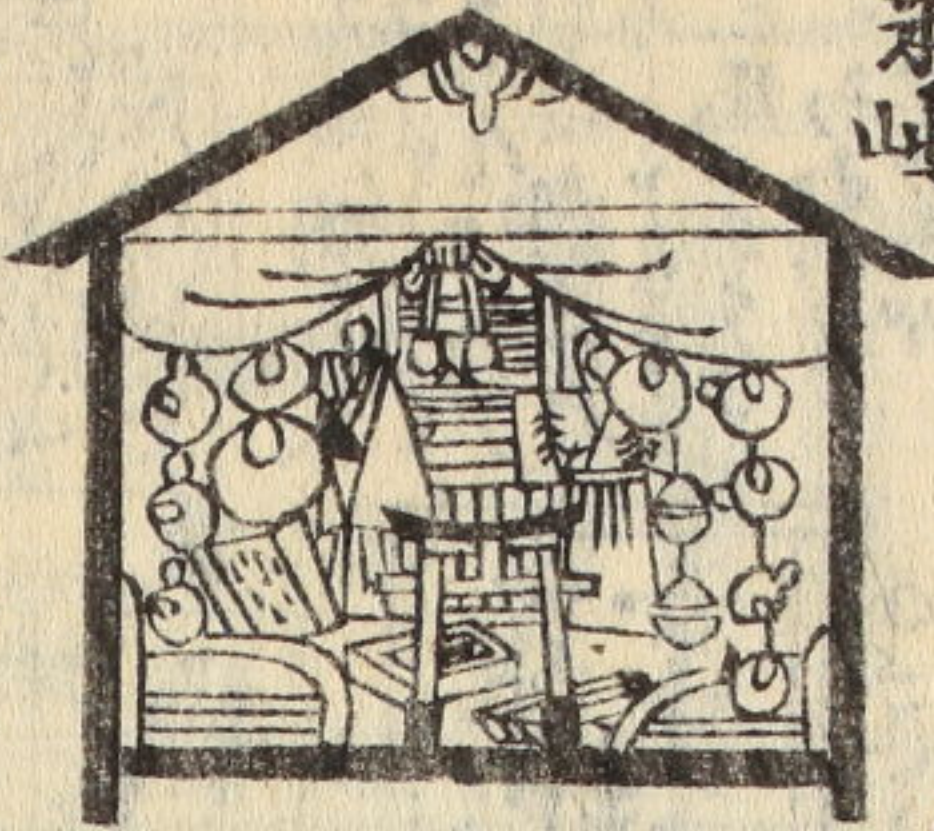
○繪馬並に懸の見立

は持来物は身物ら利の

形物ふ仕失物なるや

火用心




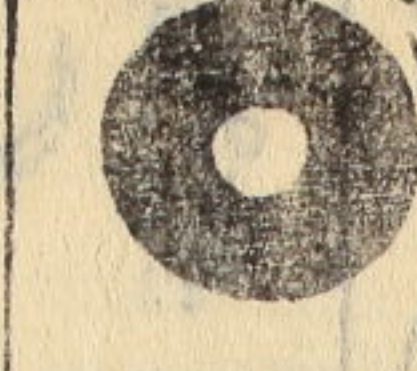
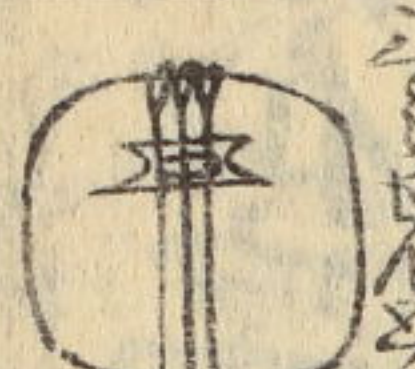

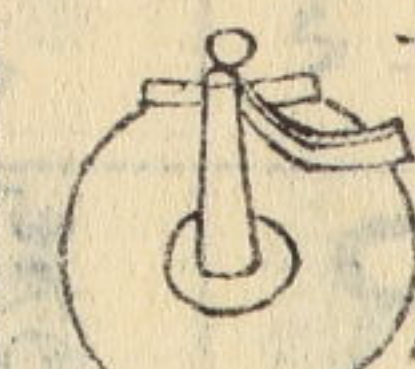





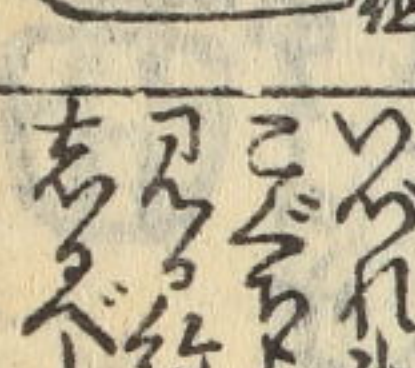


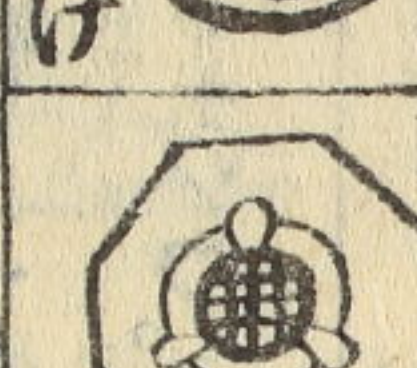
ろ下四障



○年中通用文章

春始之去駒杯も爰に見て之  
 能くや中別徳者以義載るは  
 家内之級高加格中と寸義を  
 御目爰中納付は名物の  
 流半切も五枚布之文元結水引筋  
 当年中口宝星摺之大小一枚  
 名札へがしは不細工の  
 遊がらしく扇箱を結之賜を如

しづく紋

若松万載門  
 二河屋  
 其の他の文章一畧之

○仁和寺の あしき 字の況	○金花のけ 字の惡	○かんざい 字の丈	○山の字 あやう
○かみ 字の命	○肉つ不のあ 字の白	○かねつと堂 字の言	○角かとり 二人 字の大
○争候さか 字の命	○かみ 字の貝	○かみ 字の山	○かみ 字の貝
○かみ 字の孟	○かみ 字の又	○かみ 字の目	○かみ 字の私
○かみ 字の正	○かみ 字の且	○かみ 字の玉	○かみ 字のえ
○かみ 字の豆	○かみ 字の化	○かみ 字の舞	○かみ 字の西

○枝さんご 字の毛	○かみ 字の毛	○かみ 字の毛	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>大篆 小篆 似字盡</p> </div>
○かみ 字の皇	○かみ 字の丙	○かみ 字の丙	
○かみ 字の天	○かみ 字の天	○かみ 字の天	
○かみ 字の天	○かみ 字の天	○かみ 字の天	
○かみ 字の天	○かみ 字の天	○かみ 字の天	
○かみ 字の天	○かみ 字の天	○かみ 字の天	
○かみ 字の天	○かみ 字の天	○かみ 字の天	



○途平の礼の仕り

わらわの礼  
さうし不礼  
あつちを  
あつちを  
あつちを  
あつちを  
あつちを  
あつちを



將棋指方並詰物

盤敵九の  
九面がよの九面くもり未

**主** 向ふ見せふつとていへん  
**女房** ありしはあつちの女下男  
**番頭** 内儀まの約めてたの役

**金** 駒の内をてす人の大せのあつち金  
**銀** 駒の内をてす人の大せのあつち金  
**下女** 女房の約りしはあつちの女下男  
**手代** ありしはあつちの女下男

	金		子
手代		女房	
	金		銀
	金		主
筆		借金	女郎
下女			

家棋のついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一

○要領のついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一

○要領のついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一  
あつちのついでにわらわも若人の一



文字ハ陸陽公生じて万象とありて人間用の意故あり小野篁秋字尽法人の  
 偽作あるをむと疑向と面白き事とて己巳己巳樂樂樂のどく後説まじふに  
 却て童叟此れ小毒成あま今著と誣字尽法のんふりつられ文字と輯め  
 されバ毒ゆそあまもあまど笑て用みさび忘るる所唯子孫あつる  
 事獲命が志ふは和げ娘のぢる猫も婆が願以解さるる坊苦  
 虫と食淡し笑てと而損とと車ととわのるる縁ととく丸  
 と結する而已

小野篁と虚八百余代

惟く天皇乃御宇  
 小野篁成との桓  
 師乃中ある名成あつる  
 人ありしが或附竹林の

篁の似に  
 篁といふ文字  
 是れとて字の  
 まる



わふ一人の童子をみたり  
 凡そぬ者ども思ひの外  
 尻放るる者なくとつら  
 ちれバびんあぬわのそ  
 扱もけんちる童子あんと  
 家小言ひるるえ来枝の  
 中ゆる尻放しゆま  
 弥治郎とてあつるあり  
 虚字そとて思ふ初  
 つれめて彼吉備のつら  
 うそつとて治るるやぶの中  
 で尻放撒さると世受あつ  
 後まじくうそをまふ  
 事とつて小野篁とあつ  
 此虚字とて製作用しとる

篁



小野篁或内大臣  
 形して遊ひ居るに  
 お乃乃大臣おの  
 こえをくぼけし  
 深くも平去も各天  
 傳の列座中そ子の字  
 から何まきく星  
 速く清き者なり  
 解あててのり  
 意はくの中の智  
 の程成をいふせけ

子子子子子  
 子子子子子  
 子子子子子  
 子子子子子

上下名をのんが



下下下下  
 下下下下



頼兼公

君今  
 駒形  
 あつ

本  
 まま

野暮天白皇の御字。女房大車。世  
 の成と玉子の四用。わね世目小月が  
 友小●すくわい京通と。とくまき  
 大ゆと計り。故着湯衣のうめん。借金  
 よも小濕敷。野四若八若のやうもさ  
 是別ち志どう儂ても。あつちのい  
 白の字をいひて。後合志の。漢合の上  
 合の

いろは新字

四十七字とかりくのしきぐちらりつるこ。海春山成  
おもやまをたどりおもも君まらうと習ふ家もす。及ぶま

諸方無性

いろとさけにわ。みたままよひやす。  
色酒皆迷安

註曰 志やうや孔子の志  
ぬるの性まよふも八まよふ  
をとおしてせんちもつるま  
さるやういれま迷やま

身性滅法

ちりうごくゆめかぬのほしきは。  
散動夢金欲

註曰 色を欲をいふの  
あつちののりちちちち家  
くもあつちのれかかちちち  
くもあつちのれかかちちち  
あつちのれかかちちちちち

惣別不粹

たれもふにるづ。つらみ。  
誰充滿辛氣

いあつちのれかかちちち  
あつちのれかかちちちちち  
あつちのれかかちちちちち  
あつちのれかかちちちちち

不食負樂

ねぬををあえてせむ。  
寂滅取而為

あつちのれかかちちちちち  
あつちのれかかちちちちち  
あつちのれかかちちちちち  
あつちのれかかちちちちち

かまご洞大概

小野篁撰字盡

戲作者

式亭三馬戲著  
門人 樂亭馬笑校

天 八てんぢぢく  
地 八ぢぢひと  
新天 八あてん  
古文 唐 唐 唐  
氣 八たまてん  
お粉 八べん  
さ 八ざんび  
さ物 八さりあ  
冊 八さんご  
考 八おろしん

佳 復 依 終 儻  
鏝 鏤 鉤 鏤

金 鏝 鏤 鉤 鏤

志ゆふ第、あぢやそ  
 由裏、あぢりけん  
 らんあん、あんのん  
 火吹牛、ひきき牛  
 西、あぢりけん  
 重、あぢりけん  
 落、あぢりけん  
 香、あぢりけん  
 さ、あぢりけん  
 夕、あぢりけん  
 十、あぢりけん  
 ひ、あぢりけん  
 而、あぢりけん  
 ん、あぢりけん  
 ち、あぢりけん  
 思、あぢりけん  
 病、あぢりけん

鈺 つぎん  
 銚 つぎん  
 鉄 てつ  
 鑄 ちゆう

鑿金 さうきん  
 鑿金 さうきん  
 貸金 かいかん

借 かいく  
 返 かへ  
 越 こへ

禱 たう  
 德 とく  
 積 せき  
 像 ざう

冠 かん  
 酒 しゆ  
 薦 せん  
 爲 ゐ

徒 た  
 走 しゆ  
 進 しん  
 走 しゆ

還 えん  
 走 しゆ  
 還 えん  
 走 しゆ

起 き  
 起 き  
 起 き  
 起 き



の甲とていふも  
 横のうらハよき  
 ありハハハ  
 目蓮ハハ  
 茶釜ハハ  
 根理ハハ  
 律ハハ  
 法ハハ  
 福ハハ  
 ハハ  
 ハハ

無性印判盡

箱火針 炭の消 火性	天 眼 鏡	銅 羅 焼	支 文 錢	華 目 薬	三 文 判
	天 恩 奴		香 爐 灰		

囀  
 囀  
 囀  
 囀  
 囀  
 囀

奇  
 奇  
 奇  
 奇  
 奇  
 奇

肉  
 函  
 函  
 函  
 函  
 函

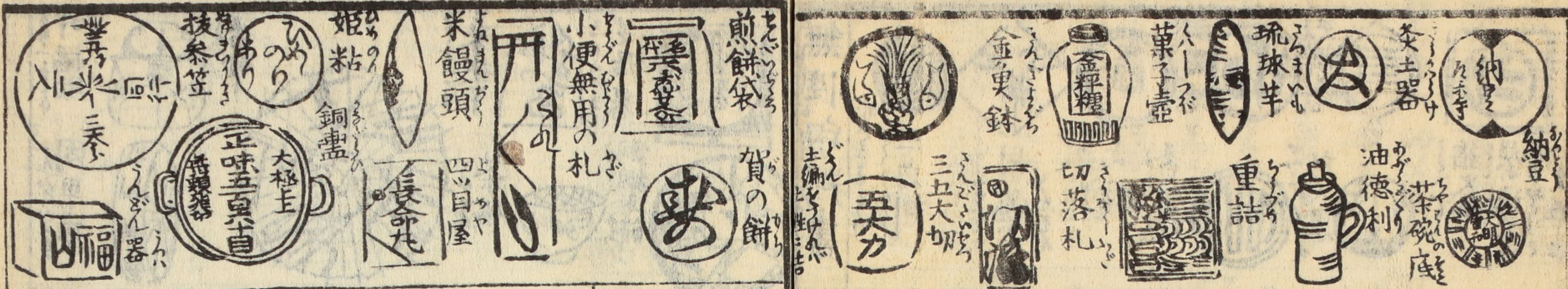
規  
 觀  
 現  
 規  
 規  
 規

甥  
 甥  
 甥  
 甥  
 甥  
 甥

甥  
 甥  
 甥  
 甥  
 甥  
 甥

掬  
 取  
 德  
 取  
 叢  
 叢

早  
 明  
 早  
 駕  
 早  
 惚  
 早  
 惚



睽 (くわい)

睽 (くわい)

剛 (ぐんち)

剛 (ぐんち)

九十目が太夫格子ハ六十目。片目けんちぞ三目ぞけの

五歩 (ごほ)

歩 (あひ)

歩 (あひ)

歩 (あひ)

眼 (まなこ)

林 (はやし)

詰 (つめ)

詰 (つめ)

燐 (りん)

燐 (りん)

燐 (りん)

燐 (りん)

蹠 (てん)

蹠 (てん)

蹠 (てん)

蹠 (てん)

響 (ひび)

響 (ひび)

響 (ひび)

響 (ひび)

以 (い)

以 (い)

以 (い)

以 (い)

余 (あま)

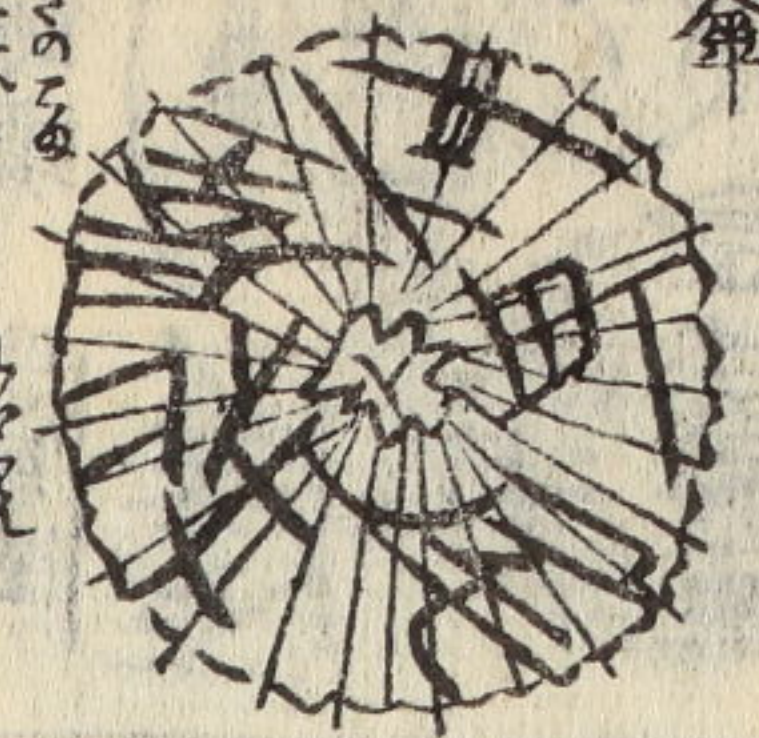
余 (あま)

余 (あま)

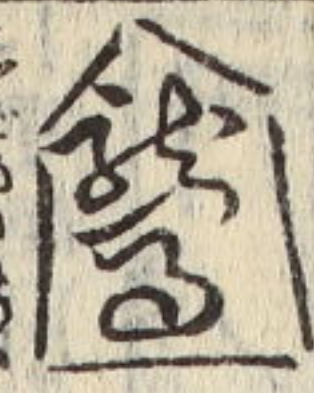
余 (あま)

かろそい系母あしりあをわふおむ水いふらひの如ぼるまへ人

叶福助 因果車



象棋子 茶碗



芝居幕 銅網餅



菓子盒 煮漆



路次口



箕摺



足袋看板



○く相性母が  
子てはあつた  
さうそんて  
下判しんま  
はさうしん  
だまてあや

碎 石 雲石 雲石  
三年のちんがう  
三年のちんがう  
三年のちんがう  
三年のちんがう

醉 醜 醜 醜  
申酉のちんがう  
申酉のちんがう  
申酉のちんがう  
申酉のちんがう

五方 富本  
五方力のちんがう  
五方力のちんがう  
五方力のちんがう  
五方力のちんがう

花屋門 見返  
花屋門のちんがう  
花屋門のちんがう  
花屋門のちんがう  
花屋門のちんがう

葉森 里塚 姪森  
葉森のちんがう  
葉森のちんがう  
葉森のちんがう  
葉森のちんがう

猪鹿 和中散  
猪鹿のちんがう  
猪鹿のちんがう  
猪鹿のちんがう  
猪鹿のちんがう

雁 雁 雁  
雁のちんがう  
雁のちんがう  
雁のちんがう  
雁のちんがう

舟 舟 舟  
舟のちんがう  
舟のちんがう  
舟のちんがう  
舟のちんがう

其の引天狗猪瓶  
北の洞多分なれ  
芝居を尋る勘合  
の管小いなる中  
判る刀法中流小  
るまも人の名乃  
るまも索押せん  
女もあつるべん  
や吉家あつたよ  
おやしも新集  
ましく双の書  
大集小集大あり  
小あり皆集く  
平判と判るに

平の祖押るを  
洞石の平祖所  
新せし是平の  
わまから祖の字  
と極のりあり  
吾朝あて八家字天  
まより始るもい  
平形集押るも  
り其倫判肉の付  
とてみ似て更平  
まづ平判せん  
るま集く集家  
子あつたの平  
門あつた田所

三  
一 靴

あつたらうびとるの二とくも申とらうのあつた

あつた  
大申

有 藤

和後肉とらうと虎もん持人と庄屋とあつた

藤

申 鯉

申鯉からせん亀はうらうらうで馬の申は

鯉

鯉

舌 吉切

舌切とらうの助たからうとらう大雄申は

吉切

大鯉

眼 眼

眼はうらうの眼はうらうの眼はうらうの眼は

眼

眼

一 魁

一はあつたらうの鬼の首はうらうの鬼の外はうらう

魁

魁

女 女

女はうらうの女はうらうの女はうらうの女は

女

女

本 本

本はうらうの本はうらうの本はうらうの本は

本

本

んま 法不 徳 徳 徳  
十二 乃 法 法  
あま じ じ じ

無性印判盡尾

五性 書判

木性吉

水性吉

土性火性  
土性吉

火性  
土性吉

二八 二五 二平 二卑

十三 十六 十八

十五 十六 二十 四十

細 細 細 細

權 權 權 權

寧 寧 寧 寧

育 育 育 育

空 空 空 空

難字和解

和 と 七 しち  
戸棚 と  
大和の和七夕の七

屁屁 へい  
屁 へい 対 たい 小 せう  
く く へい へい

情 じやう 半 はん 情 じやう  
情 じやう 半 はん 情 じやう

寸 すん 宮 きやう  
十月 じゅうがつ  
一寸の寸斎宮の宮

十六 じゅうろく 鼻 び  
十六夜 じゅうろくや の 十六 じゅうろく

耳 みみ  
物 もの 耳 みみ  
耳 みみ

毘 び  
毘 び

毘 び  
毘 び

色 いろ 毘 び  
色 いろ 毘 び

懷 わい  
懷 わい

懷 わい  
懷 わい

懷 わい  
懷 わい

鱒 そ  
鱒 そ

鱒 そ  
鱒 そ

鱒 そ  
鱒 そ

巳 し  
巳 し

巳 し  
巳 し

巳 し  
巳 し

巳 し  
巳 し

蠅 しょう  
蠅 しょう

蠅 しょう  
蠅 しょう

蠅 しょう  
蠅 しょう

秀 しゅう 御 ご  
秀 しゅう 御 ご

秀 しゅう 御 ご  
秀 しゅう 御 ご

秀 しゅう 御 ご  
秀 しゅう 御 ご

公 こう 馬 ば  
公 こう 馬 ば

公 こう 馬 ば  
公 こう 馬 ば

禊 け 字 じ 盡 じん 終 しゆう  
禊 け 字 じ 盡 じん 終 しゆう

十六夜 じゅうろくや の 十六 じゅうろく  
皆 みな が ひろくろくろ

物 もの 耳 みみ

耳 みみ

草 薺  
あせ あが  
草も薺も草  
つゝの人のそれ  
又あがくや  
ササ薺木

鼓 鼓  
大つゝ 小つゝ  
大つゝはハ大つゝ  
小つゝはハ小つゝ  
字はちのさくも

白  
九十九

代 茶  
ヤサ 茶  
。焼着  
月代の代  
あまの茶の字

月  
大つゝ  
月代の月  
大つゝ

五 十 夕  
りして  
夕

編冠構字尽  
編冠  
繪鈔  
二

傍本字と附し古文字ハ篆字ニ果小  
よきと摸文字彙引く四本  
本乃怪異同紙止し  
ちや振の化地  
山

の  
わとへん



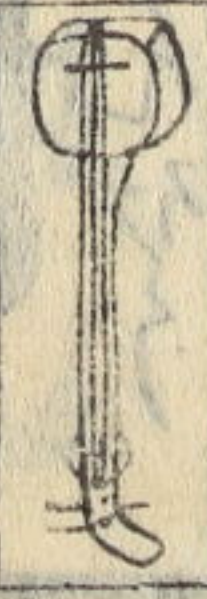
富  
らふみん



一  
つうしん



巾  
べんじん



ワ  
わ  
。あやあや  
。あやあや



人  
らうじん  
海邊  
。あまの  
。あまの



し  
し  
。あまの  
。あまの



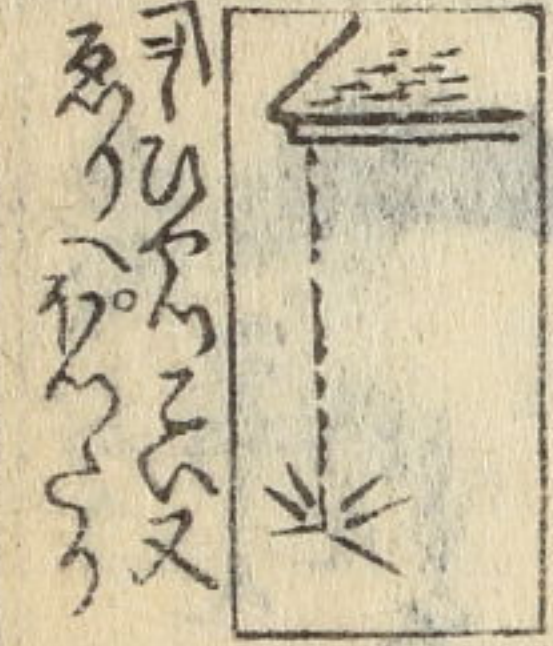
一  
べん  
小倉付  
。あまの  
。あまの



わ  
。あまの  
。あまの



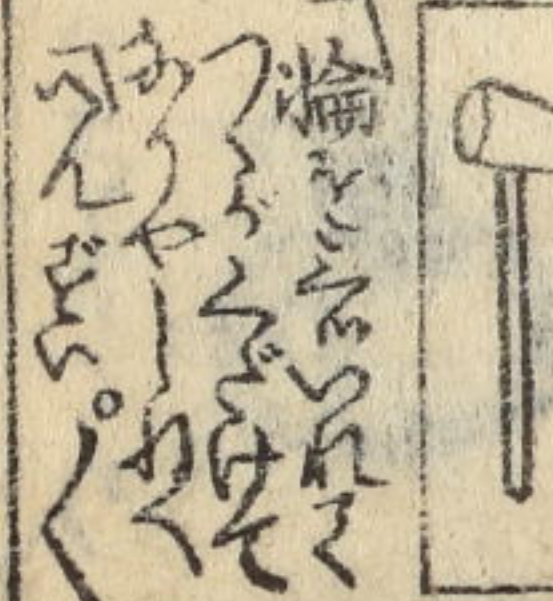
上  
あまの  
。あまの



絹  
あまの  
。あまの



一  
べん  
。あまの  
。あまの



<p>あいつらど六半 おつらど六半 字と家とととと</p>	<p>おつらど六半 おつらど六半 字と家とととと</p>	<p>あいつらど六半 おつらど六半 字と家とととと</p>	<p>あいつらど六半 おつらど六半 字と家とととと</p>
---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

仁	治	木性
---	---	----


公	和	杏
---	---	---


子	木	戸
---	---	---

君	編	勇
---	---	---


五種名頭字畫


酒造 臣君	大和乃大主生の 生主	大生壬	武士 晦日	日武
----------	---------------	-----	----------	----

晶	
---	---

口	
---	---

つ	
---	---

旦	
---	---

了	
---	---

母	
---	---

凡	
---	---

白	
---	---



尚異人 身 緑園の  
 言語頗異同  
 神妙遠馬河嶺  
 州の 廣  
 亞利弁須の詞  
 シ ヲタカヨヲ  
 ナニガニスエ  
 象の 移  
 けい  
 あり余法の  
 ありし  
 横  
 の法  
 名

尚異人 身 緑園の  
 言語頗異同  
 神妙遠馬河嶺  
 州の 廣  
 亞利弁須の詞  
 シ ヲタカヨヲ  
 ナニガニスエ  
 象の 移  
 けい  
 あり余法の  
 ありし  
 横  
 の法  
 名

性 <small>せい</small> <small>せい</small>	能 <small>の</small>	鬼 <small>こ</small>	陳 <small>ちん</small> <small>の</small>	傳 <small>で</small>	函 <small>ぼ</small>	表 <small>ひょう</small>	身 <small>み</small>
檀 <small>ごん</small>	弥 <small>や</small>	江 <small>え</small>	赤 <small>あか</small>	論 <small>ろん</small> <small>古</small> <small>木</small> <small>名</small> <small>富</small>	賀 <small>が</small>	花 <small>はな</small>	花 <small>はな</small>
米 <small>まい</small>	美 <small>み</small>	才 <small>さい</small>	理 <small>り</small>	手 <small>て</small>	性 <small>せい</small> <small>せい</small>	之 <small>の</small>	連 <small>れん</small>
種 <small>しゅ</small>	<small>美</small> <small>院</small> <small>男</small> <small>麻</small> <small>子</small>	夫 <small>ふ</small>	論 <small>ろん</small>	長 <small>ちやう</small>	坂 <small>さか</small>	小 <small>こ</small>	天 <small>てん</small>

オ ツ レ モ ウ シ ナ ゴ ノ ン ユ ラ  
 おつれもろしたな ごんゆら  
 オ マ ハ ン ゼ ヲ ガ 子 ヘ コ  
 おまはんぜやが子へこ  
 オ キ ヤ ク ダ ヨ  
 おきやくだよ  
 ワ タ ヤ 〇 イ ヤ 〇 キ イ タ フ ダ ン  
 わたや〇いよ〇きいたふだん  
 おまやくびよ  
 わたやひやくいひふぶの

○タツツミツダ詞

ゴ セ ヤ ガ ン ス  
 せやがンス  
 オ カ ミ ン ス  
 おかみンス  
 バ カ ラ ン イ キ リ キ リ ニ ヤ ヨ ス カ 子 エ ヅ ヨ フ  
 ばらんいかりかりにやよすか子えずよふ  
 コ タ ユ レ コ レ ガ キ イ ミ 〇 ト サ ウ レ ン イ ヲ チ ヲ チ ヲ  
 こたゆれこれがかいみ〇とさうれんいおちおち

箕 <small>こ</small>	鑫 <small>くわんの</small>	流 <small>る</small>	王 <small>わう</small>	甥 <small>おい</small>	丸 <small>く</small>	壽 <small>じゆ</small>	万 <small>ま</small>
倭 <small>こ</small>	金 <small>うば</small>	末 <small>ま</small>	救 <small>きう</small>	而 <small>て</small>	類 <small>る</small>	我 <small>が</small>	久 <small>く</small>
加 <small>か</small>	存 <small>に</small>	為 <small>ゐ</small>	者 <small>もの</small>	茂 <small>も</small>	何 <small>なん</small>	甫 <small>ふ</small>	嘉 <small>か</small>
受 <small>じゆ</small>	浦 <small>うら</small>	親 <small>おや</small> 後 <small>ご</small> 沙 <small>さ</small> 字 <small>じ</small> 矢 <small>や</small> 破 <small>ぱ</small>	奈 <small>な</small>	尾 <small>お</small>	琴 <small>こと</small>	自 <small>じ</small>	良 <small>ら</small>

枕言葉

雨はあつ、目かひつて

見かねぬ、目かせざる

風はあつ、目かせざる

ふげく、あつさる

ゆく、あつさる

ゆり、あつさる

男、あつさる

あつさる

あつさる

あつさる

あつさる

娘 かがり  
子供 あつさる

下女 あつさる

客 あつさる

女帝 やん

女帝 せん

あつさる

あつさる

あつさる

あつさる

あつさる

あつさる

負 うせ

矢 や

都 つ

陳天津  
迎茶先

先 ん

社 しゃ

名 な

雅 が

伍 ご

迺 の

仲 ちゆう

水牲 すゐせい

瀬 せ

勢 せい

仇 きゆう

深 ふか

猿 ざる

益 えき

時 とき

仲 ちゆう

那 な

世 よ

浪 なみ

葦 あし

備 び

亨 かう

語 ご

射 しゃ

可 か

園 えん

陀 だ

惠 ゑ

酒

酒

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

ち

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

永

稭

亭

湖

去

鵞

薰

庭

吞

陳地埋地而  
郊天地  
貞元津頓

名

稀

異

矣

七

上江傳七

丹

橫江傳丹

十

豎橫十太

平

吉

一

七

千



下あひら 下あひら  
 止やま 止やま  
 大便おんじょう 大便おんじょう  
 小便せうべん 小便せうべん  
 茶ちや 茶ちや  
 火ひ 火ひ  
 批ひ 批ひ  
 志し 志し

六む 六む  
 五ご 五ご  
 四し 四し  
 三さん 三さん  
 二に 二に  
 一いち 一いち  
 流行りゅうぎょう 流行りゅうぎょう  
 徳とく 徳とく

毒書どくしょ 毒書どくしょ  
 かなばきかなばき かなばきかなばき  
 へへ へへ

巾きん 巾きん  
猫の  
 通人のとうにん 通人のとうにん

ちち ちち  
あひら  
 さんさん さんさん

かんかん かんかん  
あひら  
 ちち ちち

かんかん かんかん  
あひら  
 おお 小こ

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 のの 小こ

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

かんかん かんかん  
あひら  
 かんかん かんかん

わやまゝの「布」  
おと白程の後教ハ

「おと紅き糸の  
御之味線

「いりまんの  
うらまの

「りまのの  
御守

「まらち糸の  
やまき

「なまき  
やまき

「わらじ  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「えんぎ  
のさし  
なち  
大志

「てし  
ちり  
ちり

「のせ  
ちり  
ちり

「たう  
ちり  
ちり

「ちり  
ちり  
ちり

「か  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

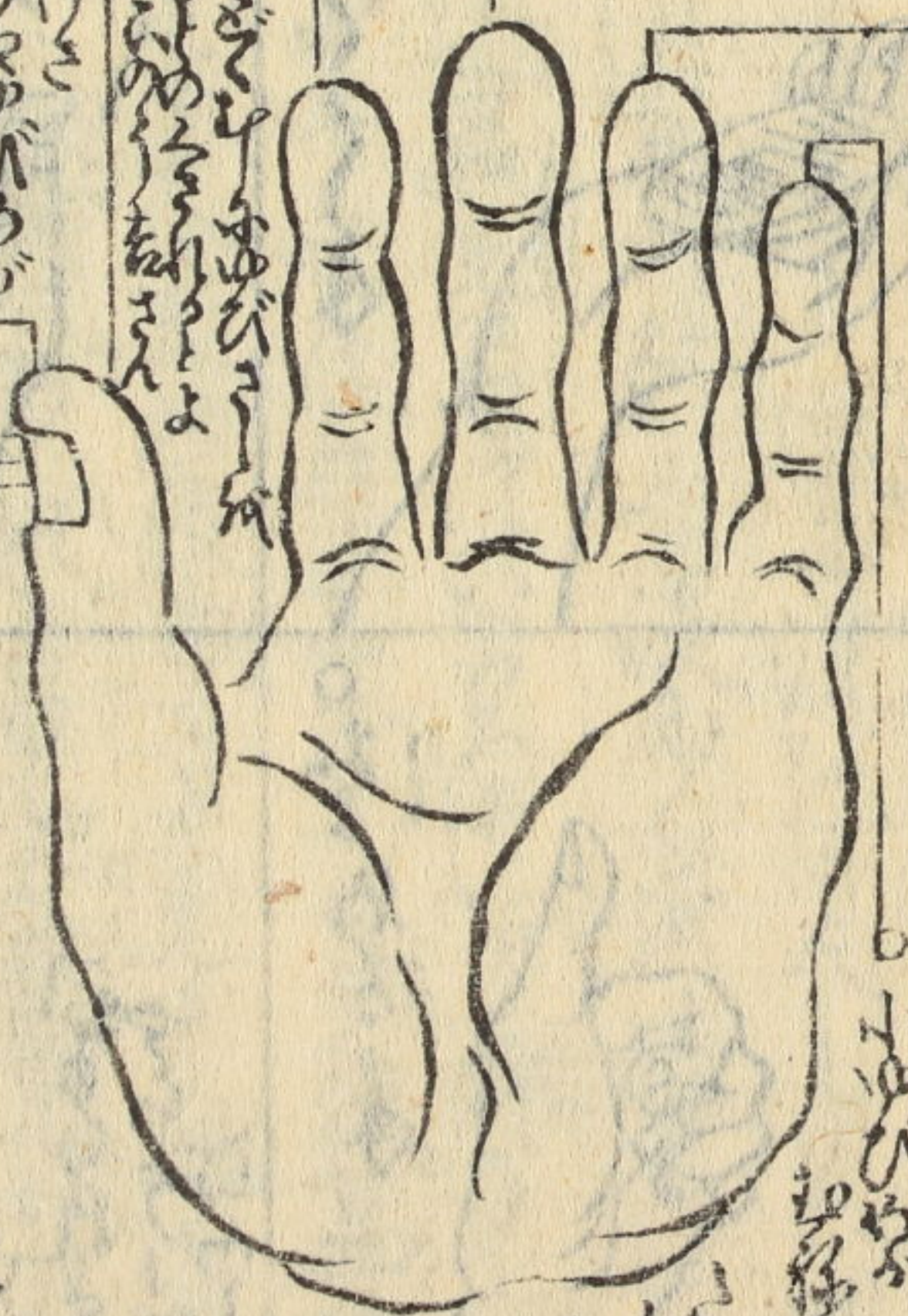
「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり

「ち  
ちり  
ちり



「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

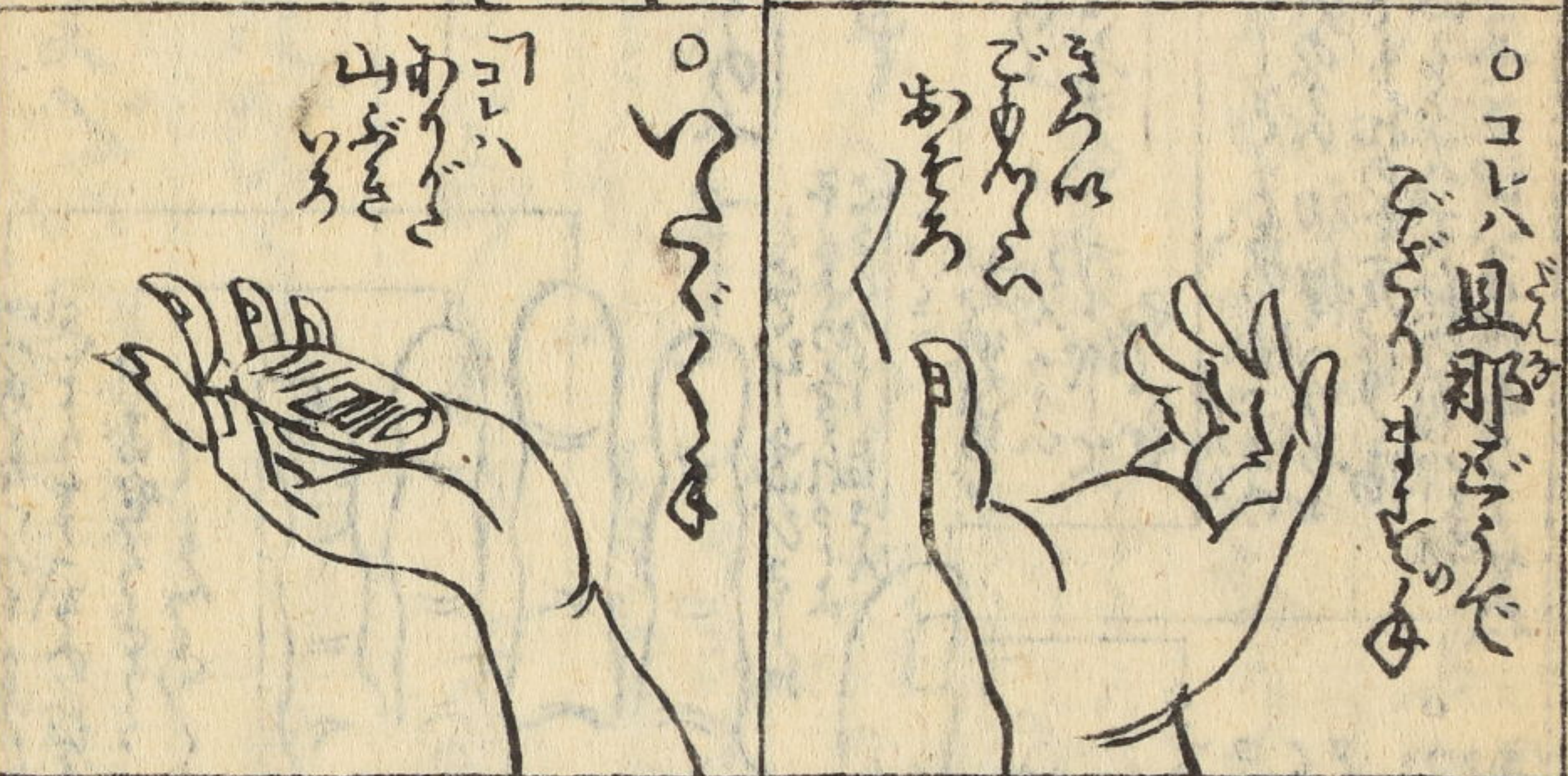
「あつち  
やまき

「あつち  
やまき

どふもんをいふいざと紋圖説



兼房... 物嫁夜... 穴... 泉... 紋...  
 兼房... 物嫁夜... 穴... 泉... 紋...  
 兼房... 物嫁夜... 穴... 泉... 紋...







學 紋 法 紋 起 請 紋 証 天 紋 肛 紋



學校とありて其脇ありて和學漢學その紋乃  
肉小流なりん。八紋乃紋人馬舟のしるしを  
武家とちんあんえんあんあては無きものなり子印にて  
婿つものあり所人面性生る賢人の事を表して



法紋と親門の徒あり。法めてをありては  
紋と云ふ金と如くつくと喜の如くたまふ。子印をこ  
くとし生長させ家につぐせんと拂子と云ふよし  
地獄星の行掛取の居位位極樂如何色と酒大と



起請紋折言紋たがひ乃狗小や年といふあり。ゆゑに  
美実起請紋をいふ。嘘と起請をいふく時を然  
世と鳥が二羽死ねたといふ。大体と反古とありて  
未ともぬ紋あり。とや始終とありて世母より



仍る如律紋証紋と云ふ金性人といふと物  
之の世今あ母志と乗。人といふと時を必と  
わやまるとし。証紋といふもよく判人といふ  
ゆゑんきとす。此紋出ると運ると行符の牛あり



天紋見ゆ時と渾天候といふ在る物のり。わ  
律と云ふと東風と云ふ人船と云ふと  
客の音入てを。客と云ふと雷といふと  
こ。三寸と云ふを持てふんあせくと云ふ天紋



肛門田所乃髪結衣乃情子小似る名もあつて  
奴持持此相の尻と云ふと世母といふ  
おまゝの奴と紋也。法法大師小相違しとや。さう  
しと子度く奴持ぬぐつせ。大威のわらうと云ふ大正

# 人相小鑑

## 福相



○卜司のたまふは... 尾巻あがる紅門ぞ縁終

# 人相圖繪

一厚二威三... 四古五孤六... 七悪八俗... 星孤八相... 此大概と... 去る... 新... 四相... 先... 相... 心... 忌...



面相如... 人相... 面相如... 人相... 面相如... 人相...

と世み我後八相  
 といひのよのよのふ  
 出せる深。又四相  
 と増考して十二  
 相のわらふこと  
 四相なるゆゑ  
 西のくさや  
 圖解を抹末  
 ありて中か面と  
 志ぶ相。心持  
 ざるは後相。小  
 ふくさるは結  
 相。しづくさる

さう中後と  
 お。う也瓜  
 のととびりく  
 まがひとド相  
 ちやうとわら  
 とつらと高  
 ともうかが大相  
 初輕瓜  
 下合ふ面はさ  
 う碎れ。天  
 うがうとら  
 虚々相いせふ  
 ちやわとさ  
 ね。ちやうと



守が能相



妙相



おとや相



氣が短相



不足相



貧相



さくど相



くま相

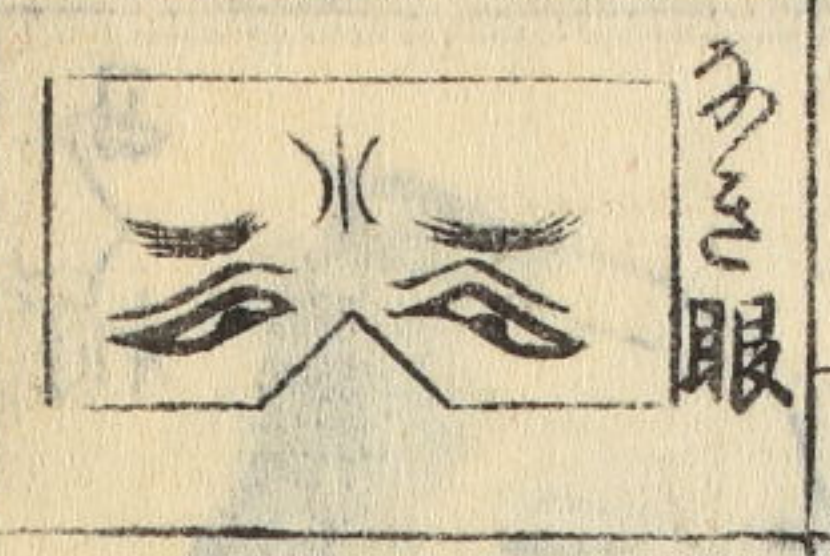
面部乃圖註解

うらぶあふハおと  
ありお。麻衣の  
らしきもまじじ  
まをひお。初  
ひらうとあふ  
空の如く物くれ  
と相。女の身  
ひらうとあふ  
ま。女顔小天窓  
桐。女顔小天窓  
の如くぬすま  
のびと相。陰居の  
住居と別相。名  
才あらう。総目

七夏同中  
ワカク馬  
かたの  
くみ  
目の甲斐  
あり



固十郎



あき眼

ふ家  
くま  
くま



をま眼



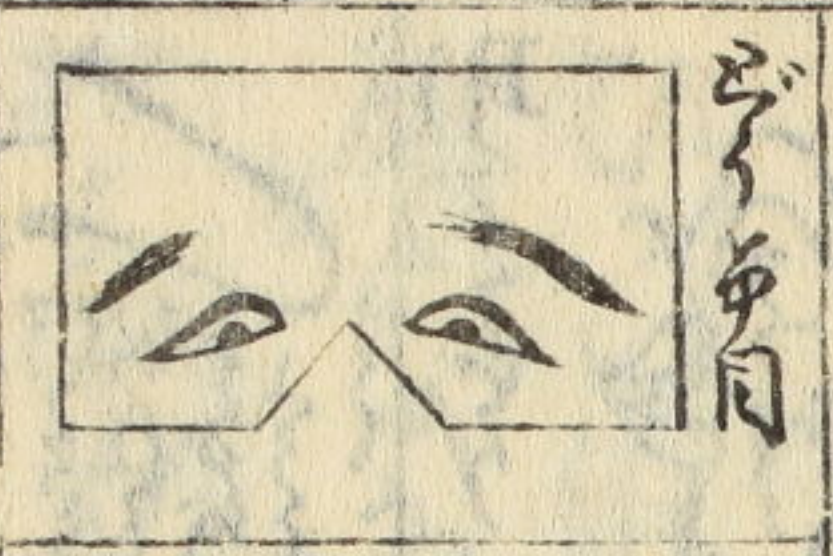
笑ひ眼

人間万変善悪邪正眼鼻  
再口より出た目鼻諸の  
よく糸世頭の不  
と鼻諸の匂  
く乃素瓜  
か  
く乃素瓜  
く乃素瓜  
く乃素瓜

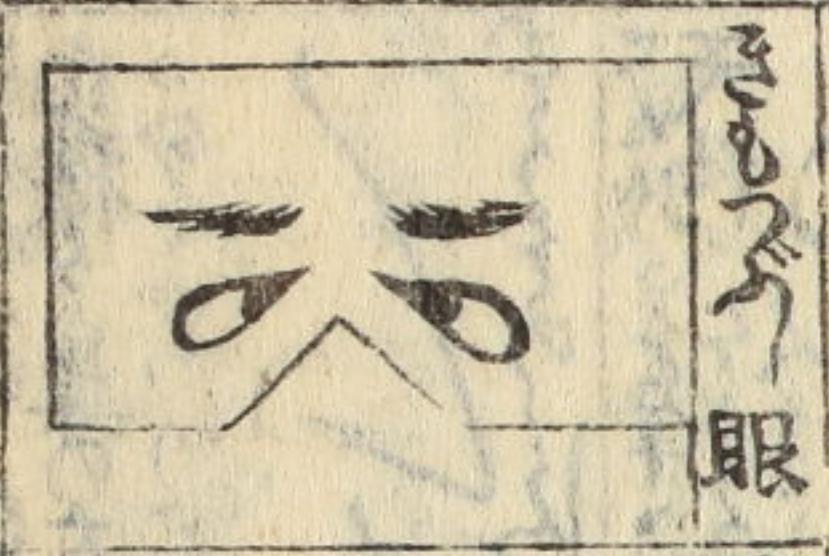
好相。  
食と相と天  
おとまの相  
りとの相と  
肉の相と色  
らあつら。此相  
かよしく  
時を  
夜易の  
わとも不  
わとも不  
ん乃  
卦文の表



のま眼



くま眼



こもろ眼



いろ目



女の目



悪眼

身と眼と鼻と口と切者  
目口の  
王  
身と眼と鼻と口と切者  
乃  
目鼻  
香  
列の  
志





まがらひのめし  
まがらひのめし

面の圖

外面 如菩薩



内心 如夜叉



とらまのめし  
とらまのめし

不工面

大世をいれよう  
とらまのめし



能工面



元月のあま  
ついでに  
ついでに

同 五 大 山 大 同

まがらひのめし  
まがらひのめし  
まがらひのめし

○星よりさき酒宴有後

まがらひのめし  
まがらひのめし  
まがらひのめし

夏乃面

まがらひのめし  
まがらひのめし  
まがらひのめし



月乃異名略

正月 甲子 春  
 二月 初午  
 三月 雛様  
 四月 誕生  
 五月 幟  
 六月 天王  
 七月 七夕  
 八月 月見  
 九月 菊見  
 十月 夷講  
 霜月 顔見  
 極月 餅春

游戯堂式亭三馬著



拍案

英雄羈譚

三馬作 芝神前 芝神前 芝神前

○南の馬作より小冊として刊行されしもの出版

維時文化第三卷丙寅春王正月開鐫

發客

芝神前

和泉屋市兵衛板



